

被害者様

2001年3月10日(土)夜・記

耳からはなれません。心の奥底に今でも、これからもずっと **■** ちゃんの苦痛の声を聞いて生きていかなければならないかと思うと、私のした罪深い行為の恐ろしさを、はらわたにしみて痛感します。

父親さんからの電話の最中に溢れてた涙が今でも止まりません。電話の受け答えもままなりません。涙が止まらないから、こんな手紙を書いてしまいました。

手紙を出すことが、**■** ちゃんを刺激するだろうと思います。しかし、お許し下さい。苦しみの究極にあり、そうしなければ人にさえ会うことができそうにありませんので、書かせて下さい、投函させて下さい。

父親さんが、昨日「裏切られたから、**■** の一生はめちゃくちゃになった」と言われました。本当にその通り、弁明の余地はありません。ただ、一言だけ言わせてもらえますならば、意図的に、**■** ちゃんを苦しめてやろうと思ったことはみじんもありません。

小さくて可愛い **■** ちゃんに、目の中に入れても痛くないほどの思いをもっていました。膝の上に抱き上げることが心地よかったです。それだけで終わっておくべきでした。ただ、セクハラをしてやろうとか、えじきにしてやろうと、思ったことは一度もありませんでした。

特に、中学生から高校生になられた頃などは、恋愛の対象となってしまいました。“好き”という感情を抑えることができませんでした。好きで好きで好きで、どうしようもなく好きで、好きであることに狂い死にしように好きでした。しかし、あの感情をもって愛であった、などと厚かましいことは決して言いません。愛が人を傷つけるはずがありませんから。あれは自己本意な、男の恋い焦がれた行動、しかも最大限に卑劣な行為であった、と心底認めています。

一般的には、好きであることに狂う前に、制御・抑制が働かなくては常識人とは言えないことも今振り返れば、分り過ぎるほどに分ります。2000年冬に**父親**さん当てに手紙を書きました。その中に書いた内容の出来事が“どうでもいい”という感情と共に、制御を失わせてしまいました。牧師なんてどうでもいい、と荒れに荒れながら、しかし、**■** ちゃんのことは誰よりも大好きでした。その思いは、今でも質を変えて

心に充滿しています（大変なご迷惑でしょうが）。

ですから、■■■■ちゃんの悲鳴が耳から離れません。一生離れないと思います。いたたまれなくなります。解放して上げるのに手を差し伸べたくなくなってしまいます。そうした思いが■■■■ちゃんを反って苦しめてしまうのでしょうか。あの時の私は30歳代でした。22歳も年の離れた女の子なのだから……、という理性など、吹き飛んでいました。年齢に関係なく好きぐるいをしていました。

聖光教会に転勤命令が出された時には、断ろうか、とさえ考えていました。しかし、そうもいかず、私は、心の中の狂った愛情を抑えこむことに疲れはてる日々が続きました。本当に大好きでした。

我に反るのに3年は掛かりました。子どもたちが大きくなり、貧しい牧師所帯を切り盛りする家内の苦勞を見つめながら、私はやっどの事で正気に戻ったように思います。そして、今度は質を変えた形で■■■■ちゃんを思うようになりました。ですから、お正月に皆さんをお迎えすることがとても楽しみになっていました。楽しみにしながら、同時に徐々にではありますが、私がしたことの罪深さが重く、鉛のような重量感で、私に圧力をかけてきました。その当たりから気が狂いそうな症状が私の中でうずくようになりました。たとえば車に乗ると、何だか気が荒々しくなり、堤防を走っている時などは、訳もなく、飛び込んでしまいたくなるような衝動を覚えました。パチンコに狂いました。金などいらない、とばかりに無茶苦茶な浪費でした。夜が眠られなくなりました。家内に隠して睡眠薬を医者からもらうようにもなっていました。人生が全く面白くなくなっていきました。しかし、それが何であるのかが分かりませんでした。■■■■ちゃんのことと結びつきませんでした。2000年1月3日の■■■■ちゃんと家内との電話による会話が交わされるまでは……。

ずいぶん長い間、忘れていました。しかし、意識の部分では忘れていたかも知れませんが、不愉快な365日を送り続けていたように思います。お正月にお会いする時が、なぜあんなに嬉しかったのか、その答えが今になって分かりました。安心を求めていたのだと思います。■■■■ちゃんの成長を確認して、何事もなくまっすぐに成人された、という安心を求めていたのではないか、と思います。全くエゴの固まりです。自分のことしか考えていない男であった、と思っております。それでいて、やはり“好き”だとか“会えて嬉しい”という■■■■ちゃんへのプラスの

思いを喜んでいたのでと思います。

2000年1月3日の電話、その後には■■■■ちゃんと家内との出会いによる会話……。私のした罪の深さを思い知らされました。反省をしている、ということをお伝えしているのではありません。今では、そこまでのエゴイストではないつもりです。ただ、何もできない私を見つめているだけです。何かをして上げたい、と思いながら、何をしたら■■■■ちゃんが回復されるのか、全く分からないまま、1年間以上を過ごしてきました。そして、昨日の電話で、■■■■ちゃんの苦しみの現実を目の当たりにしてしまいました。

2000年11月22日～23日に、**父親**さんと教区の会議でお会いしました。赦しを求めようとは思いませんでした。しかし、何か私にできないだろうか、とお聞きしました。何をしてもだめだ、と父親ならば当然のお答えを戴きました。

昨日の電話の中で11月にも言われた同じ一言をおっしゃいました。「信頼を裏切られたために■■■■はこんなに苦しんでいる」と。また「誰をも信頼することができない人間になった」とも。眠れないままに、考えました。本当にその通りだと。何も弁明できない、と。ただ、たった一つだけ、違うのではないかと、思うことがありましたので、実はそのことをお伝えするためにこの手紙を書いた次第です。このことを伝えるのはとても難しいことだと思っています。また、何のためにお伝えするのか、■■■■ちゃんのためなのか、自分が楽になるためなのか、その答えは見つかりません。前置きが長くなりましたが、思い切ってお伝えいたします。

私が裏切っていたのは、■■■■ちゃんよりも、実は原田満子ではなかったらうか、ということ。家内をも含めた家族ではなかったか、ということ。好きであるという感情をコントロールするのはとてもできません。私ははっきりと■■■■ちゃんが好きでした。そして今でも、先ほど言いましたように質を変えて■■■■ちゃんを思っております。それがどんなにご迷惑なことであろうかも想像が付きながらも、やはり“好きである”という感情はどうなるものでもありません。長い間、心の中で原田満子という女性を裏切り続けてきました。■■■■ちゃんに狂った愛を押しつけ、心の深い所に癒しようもないほどの傷をつけ、あんなに尽くしてくれる満子を心の中で、実は否定し続けてきたのではないかと、悔や

んでも悔やみきれないほどの告白を、まずは■■■ちゃんに申し述べます。

昨日の電話のことは、実は満子には話しておりません。しかし、誰からの電話であったかを彼女は気付いています。あれ以来（2000年1月3日）、彼女と私の関係は微妙に揺れ続けています。みんな私の罪です。私には自業自得です。しかし何も悪くない満子が哀れに思えて仕方がありません。本日（3月10日）、朝のこと「怖い夢を見た」と言って私の前に姿を現わしました。涙のあとが残っていました。「どんな夢や?」と、聞くと「あんたが私を汚い部屋に閉じ込めて、どこか遠くへ行ってしまった夢」と、言いました。

その時に、はっきりと気付きました。はっきりと気付いた時、本当に恐かったです。しかし、事実を隠さずに言います。「私が裏切り続けてきたのは満子であった」と。これは正直な私の心の本音です。うそは全くありません。偽りも皆無です。私は■■■ちゃんにあんなことをしましたが、私の心の中では一度たりとも■■■ちゃんを裏切ったことはありません。このことが■■■ちゃんの負担になったらどうぞお教し下さい。

2000年の1年間をかけて、■■■ちゃんの回復を祈り続けてきました。全く負担なく祈ることができました。愛しているから、勝手に、しかも積極的に、自然に祈ってしまいます。私は、51歳になった今でも、今度は質の違った形で■■■ちゃんを愛している、ということに気付きました。この感情をコントロールすることはできません。

過去のあることが、今を苦しめている、ということは拭いきれるものではありません。責任は全く私にあります。あなたには何の責任もありません。愛する人をこんなにも苦しめてきた、ことに愚かにも気がつきませんでした。2000年1月3日に、満子に話してくれて本当によかったと思っています。話したことから、言葉に出して表現したことから回復が始まります。今の私の気持ちは、正直な気持ちは、私はどうなっても構わない、と思っています。「だから、どうぞどうぞ、神さま、■■■ちゃんを癒して下さい……、■■■ちゃんを回復させて下さい……、■■■ちゃんが普通に生きられるようにして下さい……、■■■ちゃんの悲鳴を取り除けて下さい……、■■■ちゃんに腹痛を起こさせないで下さい。」そのためなら何でもします。私にできることを教えて下さい、神さま」これが私の心の中をえぐり出した真相です。その根拠は、今でも■■■ちゃんを愛しているから、だと確信しています。■■■ちゃんが負担に思わ

れてもやはり、私は■■■ちゃんが好きです。この気持ちを制御することはできません。嫌いになれ、とか、普通になれ、と言われても、どうすることもできません。

ですから、■■■ちゃん“人を信頼することができない”という心の深層は間違っています。しかし、これもまた、■■■ちゃんの制御できない感情ですから、どうしようもないのかも知れませんが……。この手紙は、書いていくうちに、ラブレターになってしまっていることを思います。あなたに書く手紙にそれ以外のものを求めることはできません。自然にこういう手紙になってしまうのですから。

けれども、一つだけは、ご安心下さい。私の心の中には、あなたの身体を求めるような愛は、消えうせたことを、どうしても書いてしまわなければなりません。高田で出会った時、私の心がニュートラルな時期でなかった（2000年冬に書いたお父さんへの手紙の内容）ことを私は怨みます。実に不純な行為でした。制御がきかなかつた荒れ狂っていた私の複合的な感情を恨んでいます。監禁したり、強姦したり、抑圧したり、嫌がらせをしたり、つまりセクハラのえじきに■■■ちゃんを利用した。という思いはこれっぽっちもありません。ただ、こんなに好きなのだから、それに答えて私を愛して欲しい、という気持ちはありました。信じられますか。信じていただかなくても構いません。私の心の中にある真実ですから私自身が一番知っています。これは、自己弁護ではありません。私は赦されるとは思っていません。いつの日か、■■■ちゃんや満子が赦してくれたとしても、おそらく私自身が決して赦さないであろうことを予感していますので。しかし、前記したような単なる肉慾のえじきになったと思っておられるとしたら、大切な■■■ちゃんがあまりにも惨めすぎる、と心から思いますので、書いた次第です。うそ偽りはありません。大切な■■■ちゃんと、尊敬する父親さんと、裏切り続けてきたけなげな満子に、そして何よりも神さまに誓って真実です。

さて、■■■ちゃん、前にも（11月）、父親さんをお願いしてみたことですが、いつの日か、お会いすることはできないでしょうか。急ぎません。手紙では足りない心の思いを、深くから、内臓をえぐり出すような思いで、私はあなたにあやまりたいのです。これは多分、自分のためにそうしたいのだと思います。赦されることは全く期待していません。あなたにあやまるのが、満子への懺悔にもなるように思うからです。

原男がセクハラ行為をした証。

満子は、この3年ほど、腰の間接がズレる“滑り症”に悩んでいます。ひどい時には、朝起きることもままならない状況です。息子の就職が内定しております。全国どこへ勤務するかも現在のところ定まっていません。家族の幸せを書いているのではありません。家族は決して幸せではないでしょう。私のような夫や父親をもった妻や子たちは、不幸です。ましてや、息子が遠くへ行ってしまったら、どの満子の不安ははかり知れません。私には裏切り続けてきた妻を守る義務があります。私のために、どは口が裂けても申しません。ちゃんちゃんの回復こそが満子の喜びです。

そして、ちゃんちゃんの回復は、私にしかできないのではないかと、思っているのです。私には、ちゃんちゃんがとても大切な存在ですから、根拠はありませんが、回復への手助けができるように思うのですが、これは間違っているのでしょうか。どんなカウンセラーよりも私は命がけて精一杯のことが苦勞なくできます。ちゃんちゃんを今でも大好きですから。人を信頼することのできるちゃんちゃんに戻って、幸せをつかんで欲しいのです。あなたを苦しめた張本人の私が言うと、お腹立ちのことはよく分かりますが、それでも言わせて戴きます。ちゃんちゃん、あきらめてはだめなのです。絶対に回復します。私には、その姿が想像できます。私の陰湿な影がちゃんちゃんの心の扉を押し塞いでいるのです。私自身が、それを払拭しなければならぬのです。その後に、私はどのような裁きをも受けます。これは偽らざる私の思いです。

聖光教会に来てから13年が経ちました。以前のような私ではない、ということ、それからちゃんちゃんへの愛は、全人格的なちゃんちゃんを愛する愛に質を変えた、ということ、これだけは信頼して戴きたいと思えます。

この手紙が、ほんの少しでも、ちゃんちゃんの重苦しさを柔らげますように、と願いながら、少なくとも苦痛の上塗りにならないことを祈りながら、勇気をもって投函することにいたします。

最後に私の携帯電話番号を書いておきます。我が家には無理としても、携帯にならなくてもよい、とお思いになることもあろうかと思い、お知らせしておきます。但し、急ぎません。声も聞きたくないことはよく分かっておりますので。いつまでも待っております。

「090-番号廃止-0550」

原田文雄